

平成24年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

三島スピリット（自主自律の精神）の深化を図り、将来を担う人材を育成し、地域に信頼される学校をめざす。

- 1 自他を尊重し、三島高生として自覚と責任ある行動をとることができる生徒を育成する。
- 2 国際感覚に富む社会人として自立し、社会や地域の一員として積極的に貢献しようとする人材を育成する。

2 中期的目標

1 進路を切り拓く確かな学力の育成

- (1) 本校の生徒実態を踏まえた、学習到達目標を確立し、授業の質を向上させることにより、学力の定着を図る。
 - ア 学力充実委員会が中心となって、授業アンケートを活用した授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力を組織的に向上させる。
 - イ 公開授業、研究授業、校内研修を通して、ICTを活用した授業や生徒にとって充実した授業、効果的な授業のあり方を検討し、授業の質の向上を図る。また、授業研究等、授業改善に関する校内研修体制づくりに、「パッケージ研修支援」を活用する。
 - ウ 講習・補習の充実、土曜日の活用など、多様な学習の機会を設けて生徒の学習意欲を高め、自学自習力を育成し、学力の定着を図る。
- ※ 授業アンケート結果の理解度（平成22年度末最高85%、最低59%）を平成26年度末にはすべての教科で75%以上にする。
- ※ 学校の授業改善への取り組みの効果に対する成果（平成22年度学校教育自己診断で「効果あり」と答えた割合40%）を26年度末に70%に引き上げる。
- (2) 進路指導年間計画を充実させるとともに、志学の中に、とりわけキャリア教育に関わる内容を充実させた指導計画を確立する。
 - ア 3年間を見通した進路指導計画を策定し、データに基づいた生徒一人ひとりの学力の伸びや課題を把握し、生徒の関心・意欲を高める適切な支援を行う体制を構築する。
 - イ 外部の人材を活用し、高校・大学での学びを将来につなげ、主体的に進路選択ができるよう、様々な機会を設定する。
- ※ 平成22年度学校教育自己診断で「自分の目標を定め、それに向かって努力している」という肯定的な者の割合が63%であったものを平成26年度までに80%に引き上げる。

2 規律・規範の確立と豊かな心の育成

- (1) 生徒自らが規範意識やモラルを高める取り組みを組織的に推進する。
 - ア 自らを律し、他者を思いやり、公共のマナーやルールを守るなど、規範意識を醸成する取り組みを実施する。
 - イ 自己管理能力を高める取り組みを推進する。特に時間管理を徹底させ、勉強時間と部活動時間のメリハリをつけさせる。
- ※ 平成22年度の遅刻数を平成26年度までに半減させる。
- (2) 学校行事や部活動を通して、生徒間、生徒と教員との間の絆を深め、互いに信頼し尊重できる人間関係の構築を図る。
 - ア 生徒会活動、学校行事、部活動など、生徒の自主的活動の活性化を図る取り組みを充実する。
- (3) 人権教育、国際理解教育を充実させる。
 - ア オーストラリア語学研修を充実させ、多様な方法によりコミュニケーション手段としての英語力を向上させる。
 - イ 国際交流の機会を増やし、互いの違いを認め合い、共に生きていく多文化共生の精神を涵養する。
 - ウ 人権意識の向上を図るため、3年間を見通した効率的な人権教育推進計画を策定する。

3 地域に信頼される安全で安心な学校づくり

- (1) 防災計画の見直しを図り、危機管理体制を再構築する。
 - ア 火災に対する新たな行動マニュアルは、24年度前半に策定する。また、地震等その他の天災に係るマニュアルも、24年度末までに策定し、生徒が自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」を育成する防災教育を推進する。
- (2) 校内の教育相談体制を一層充実させ、生徒に対する支援活動ができる体制を構築する。
 - ア 教育相談室の機能を充実し、スピード感をもって適時・適切な指導ができる体制を確立する。
- ※ 平成22年度学校教育自己診断で「悩みや困っていることがあれば相談できる先生がいる」の肯定的な割合が40%であったものを、平成26年度末までに70%に引き上げる。
- (3) 広報活動を強化し、地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する。
 - ア 中学校等への広報活動を充実するとともに、本校に対する要望や評価を把握し、改善につなげる。
 - イ 中高連絡会を開催し、中学校との連携を深め、生徒理解を促進する。
 - ウ ホームページを刷新し、中学生等に対する学校の活動の情報発信を強化する。また、本校生徒や保護者に対しても情報発信を充実する。
- ※ 平成22年度学校教育自己診断で「学校はホームページでよく情報を伝えている」の保護者の肯定的な意見が50%であったが、これを平成26年度までに70%に引き上げる。

4 効率的な学校運営体制の再構築

- (1) 学校組織を改編し、スピード感をもって課題を発見・解決できる組織として、また学校総体として目標を共有し達成できる組織として再構築する。
- (2) 「育成支援チーム」事業に応募し、ミドルリーダーの育成を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成24年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力充実委員会が中心となって、授業アンケートを活用した授業改善に積極的に取り組み、「研究授業や授業アンケートの結果を受けとめ授業改善に効果をあげている」と答えた教員が75%であったのに対して、「教え方に工夫をし、わかりやすく効果的な授業をしてくれている先生が多い」と答えた生徒は74%であり、教員の授業改善を生徒も評価している。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談委員会を設置し、エキスパート支援員（スクールカウンセラー）を活用して、校内教育相談体制の一層の充実を図った結果、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」と答えた生徒は71%であった。ただし、「担任以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」は61%にとどまった。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度はホームページを刷新し、広報に力を入れた結果、「学校はホームページで情報をよく伝えている」という項目に対する肯定的な回答は、生徒74%、保護者54%、教員87%であった。保護者への周知に工夫が必要である。 ・「三島高校に入学してよかった」生徒93%、「入学させてよかった」保護者91%、「学校は教育活動全般について生徒や保護者の願いに応えている」と答えた教員は92%と、生徒・保護者・教員それぞれの満足度は非常に高い。 	<p>第1回 (7/21, 12/1)</p> <p>○H24年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三島高校生の学力の特徴をしっかりと分析することが重要である。 ・学習量と学習の質は全く違う。質が大事であり、学習の質を上げることを考える必要がある。 ・自分を高め自信を持つ意識を育成する取り組みが必要である。 ・地域・小学校・中学校との連携を深める取り組みが必要である。 ・きちんと対応する組織づくり、ノウハウが継承できる組織づくりが必要である。 <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を目的とした自己診断かを明確にする必要がある。 ・人格形成のための自覚を促すような質問事項も用意する必要がある。 ・自己理解の度合いを尋ねる項目も入れられないか。 <p>第2回 (2/16)</p> <p>○自己評価（2月時点暫定案）に関する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2の項目については、よく達成している。生徒の満足度も高いが、満足度の質を精査する必要がある。 ・自己評価で目標を達成していない項目について、課題を分析し次年度に活かすことが必要である。 ・アンケートの数値は、4つの評価の「あてはまる」と否定的回答の割合を見るべき。 ・国際理解教育については、目的意識を持たせて、生徒に発表させる機会を設ける必要がある。 ・防災に関わるアンケートでは、生徒の肯定的回答が100%であるべきだ。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価（達成状況）
<p>1 進路を切り拓く確かな学力の育成</p>	<p>(1) 学習到達目標の確立、授業の質の向上による学力の定着 ア 授業アンケートを活用した授業改善の実施 イ 公開授業、研究授業、校内研修を実施し、授業の質を向上。「パッケージ研修支援」の活用 ウ 講習・補習の充実、土曜日の活用などによる自学自習力の育成</p> <p>(2) 進路指導年間計画の充実、キャリア教育指導計画の確立 ア データに基づいた生徒一人ひとりの学力の伸びや課題の把握、適切な支援体制の構築 イ 外部の人材を活用したキャリア教育の実施</p>	<p>(1) 学力充実委員会に非担任でいずれの分掌にも属さない人員を配置し、授業改善計画等を策定する。 ア 授業アンケート（年2回実施）を見直し、授業の目的や到達目標を生徒が理解できているか、また、生徒が目標を達成することができたか等の視点も取り入れ、授業改善にも活かせるアンケートに改善する。 イ・生徒にとって充実した効果ある授業のあり方について検討し、それを踏まえた研究授業を2学期に実施する。 ・「パッケージ研修支援」を活用し、授業研究等、授業改善に関する校内研修体制を構築する。 ウ・学力生活実態調査を分析し、自学自習力の育成に繋がる土曜日の活用等を計画する。 ・学習が遅れがちな生徒に対する日常的な支援の実施を通して、日常の授業に対する意欲を高める。</p> <p>(2) ア データを分析し、情報の共有および教員のガイダンス機能を充実する研修会を開催する。 イ 同窓会等と連携し、進路HR等で働くことの意味、仕事のおもしろさ、高校・大学での学びを将来に繋げること、国際化の進む社会の中でその一員として生きること等を語ってもらう機会を設ける。</p>	<p>(1) ア 授業アンケートにおける「理解度」をすべての教科で70%以上とする。 イ 学校教育自己診断における教職員の授業改善に対する取組みに「効果がある」と答える割合を60%に引き上げる。 ウ 家庭学習時間の調査を5月と10月に実施し、10月の家庭学習時間を5月から平均で30分増加させる。</p> <p>(2) ア センター試験受験者（5教科7科目）2割増 イ 平成22年度学校教育自己診断で「自分の目標を定め、それに向かって努力している」という肯定的な者の割合が63%であったものを70%に引き上げる。</p>	<p>(1) 学習到達目標の確立、授業の質の向上による学力の定着 ア 授業アンケート1回目を7月20日に（「理解度」70%未満は3教科）、2回目を12月に実施した（「理解度」70%未満は0）（○） イ・11月1日に学力充実委員会主催で2回目の研修会を行い、11月9日に研究授業、研究協議を各教科で実施した。 ・「パッケージ研修支援」を活用して、7月5日に研修会、1月23日に研究授業を実施し、研究協議を行った。 ・学校教育自己診断における肯定率74%（◎） ・次年度は各教科とも到達目標を示した「三島スタンダード」を作成し、さらなる授業の質の向上を図りたい。 ウ・土曜日の活用については、次年度は教育産業の外部講師を活用する講習を導入する。 ・学習が遅れがちな生徒の補習については、2年数学の早朝補習、小テストの実施、定期テスト前の質問会等を実施し、日常的な支援に努めた。 ・家庭学習時間の30分増加については、1、2年生は達成できず。（△） ・次年度は家庭学習時間の目標値を示し、目標達成に向けて取組みを工夫したい。</p> <p>(2) 進路指導年間計画の充実、キャリア教育指導計画の確立 ア・8月末に教育産業による学力分析システムを導入、データ活用のための研修会で実施した。次年度は学力分析システムを活用した教員のガイダンス機能のさらなるスキルアップに努めたい。 ・センター試験受験者（国公立型）127名（昨年167名）（△） イ 大学と連携して、進路HRの充実を図った。学校教育自己診断において、「自分の目標を定め、それに向かって努力している」の肯定率は81%（◎）ただし、同窓会との連携による進路HRの充実については、次年度の検討課題。</p>
<p>2 規律・規範の確立と豊かな心の育成</p>	<p>(1) 生徒自らが規範意識やモラルを高める取組みを組織的に推進する。 ア 挨拶の励行、自転車マナーの向上、清掃の徹底、遅刻者数の減少 イ 時間管理を徹底させ、勉強時間と部活動時間のメリハリをつけさせる。</p> <p>(2) 学校行事や部活動を通して、絆を深め、互いに信頼し尊重できる人間関係の構築 ア 生徒会活動、学校行事、部活動など、生徒の自主的活動の活性化</p> <p>(3) 人権教育、国際理解教育の充実 ア オーストラリア語学研修の充実 イ 国際交流の機会を増やし、多文化共生の精神を涵養 ウ 3年間を見通した人権教育推進計画の策定</p>	<p>(1) ア・挨拶運動、自転車通学マナー向上運動など、生徒会が中心となって企画運営する。 ・清掃指導を徹底し、生徒保健委員会が中心となって、きれいな学校づくりを推進する。 ・遅刻ゼロ週間を設定し、遅刻者数を2割減少させる。 イ・下校時間の順守を徹底し、家庭学習時間を確保する。</p> <p>(2) ア 体育祭・文化祭等の学校行事を生徒主体で企画運営する。</p> <p>(3) ア オーストラリア語学研修やイングリッシュキャンプを実施し、コミュニケーション手段としての英語力を向上させる。 イ 高槻市の姉妹都市であるオーストラリアのトゥーンバ市のグラマースクールとの交流や、高槻市日中友好協会との連携による中国常州横山橋高級学校との交流を行う。 ウ 3年間を見通した人権教育推進計画を策定する。</p>	<p>(1) ア・挨拶をする生徒数を80%以上とする。 ・遅刻者数を2割減少させる。（23年度後半1年3.9人、2年8.2人、3年22.5人（1日平均）） イ クラブ加入率90%以上を維持する。</p> <p>(2) ア 学校行事における生徒の満足度・達成感を80%以上とする。</p> <p>(3) ア 英検受験者数2割増 イ 国際交流参加生徒へのアンケート結果における満足度を80%以上とする。</p>	<p>(1) 生徒自らが規範意識やモラルを高める取組みの組織的推進 ア・進んで挨拶をする生徒は87%（○） ・12月5日PTAと連携して校内トイレの大掃除を実施した。 ・遅刻ゼロ週間を設定。2学期末までの遅刻者数の1日平均19.3人（昨年25.6人）（○） イ・クラブ加入率89.1%（1年95.3%、2年94.5%、3年77.1%）（○）</p> <p>(2) 学校行事や部活動を通して、絆を深め、互いに信頼し尊重できる人間関係の構築 ア 体育祭・文化祭等の学校行事を生徒主体で企画運営した。生徒の満足度は95%（◎）</p> <p>(3) 人権教育、国際理解教育の充実 ア 7月21日～8月3日オーストラリア語学研修を実施した。3月5、6日にイングリッシュキャンプを実施する。英検受験者数105名（75名）（○） イ 高槻市の姉妹都市であるオーストラリアのトゥーンバのグラマースクールとの交流や、高槻市日中友好協会との連携による中国常州横山橋高級学校との交流を実施した。生徒の満足度は93%（◎） ウ 3年間を見通した人権教育推進計画を策定した。次年度は、今年度作成した内容をさらに精査する必要がある。</p>

<p style="text-align: center;">3 地域に信頼される安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) 防災計画の見直し、危機管理体制の再構築 ア 火災に対する新たな行動マニュアルの策定</p> <p>(2) 校内教育相談体制の一層の充実、生徒に対する支援活動体制の構築 ア スピード感をもった指導体制の確立</p> <p>(3) 広報活動の強化 ア 中学校等への広報活動の充実、本校に対する要望や評価を把握し、改善につなげる。 イ 中高連絡会の開催 ウ ホームページの刷新、中学生等および本校生徒や保護者への情報発信の強化</p>	<p>(1) ア 火災に対する新たなマニュアルに基づいて避難訓練を実施し、教職員がマニュアルに基づいて行動できるか点検する。</p> <p>(2) ア・カウンセリングマインドに関する研修を実施するとともに、配慮を要する生徒に関する全教職員の共通理解の徹底を図る。 ・エキスパート支援員(スクールカウンセラー)を活用し、指導体制を確立する。</p> <p>(3) 広報委員会に非担任で他の分掌等に属さない人員を複数配置し、広報活動計画等を策定する。 ア・全教員による中学校等への訪問を実施する。 ・学校説明会の回数を増やす。また、11月実施時に開設している体験授業の講座数を増やす。 イ 中高連絡会を実施し、生徒理解を促進する。 ウ・ホームページを刷新し、中学生等に対する学校の活動の情報発信力を強化する。 ・生徒や保護者にホームページに関するアンケートを実施して、改善につなげる。</p>	<p>(1) 防災計画の見直し、危機管理体制の再構築 ア 火災に対する新マニュアルに基づいて10月19日に第2回避難訓練を実施した。マニュアルに基づいて行動できた31%、ほぼできた69% (○) 実施後の反省や、「実践的防災教育総合支援事業」によるアドバイザーのアドバイスに基づき、危機管理マニュアルを是正した。</p> <p>(2) 校内教育相談体制の一層の充実、生徒に対する支援活動体制の構築 ア・5月23日に第1回、11月15日に第2回研修会を実施した。 ・教育相談委員会を設置し、エキスパート支援員(スクールカウンセラー)を活用して、委員会を開催した。学校教育自己診断における肯定率は62%であった。(○) ・次年度は教育相談体制のさらなる充実を図りたい。</p> <p>(3) 広報活動の強化 ア・7月上旬に全教員による中学校等への訪問を実施した。 ・学校説明会を年間5回実施した。また、11月実施の体験授業の講座数を11講座に増やした。学校説明会参加数1307名 (○) イ 中高連絡会について、次年度実施に向けて中学校の了解を得た。(△) ウ・11月2日、ホームページを刷新し、校長ブログを立ち上げた。学校教育自己診断における肯定率は、生徒73%、保護者54%であり、今後、保護者への更なる周知が必要である。(○)</p>
<p style="text-align: center;">4 効率的な学校運営体制の再構築</p>	<p>(1) 学校組織を改編し、スピード感をもって課題を発見・解決できる組織として、また学校総体として目標を達成できる組織として再構築する。</p> <p>(2) 「育成支援チーム」事業による研修を活用し、ミドルリーダー層を育成する。</p>	<p>(1)・今年度中に学校組織を改編し、首席を中心とした学校運営体制を再構築する。 ・委員会組織をスクラップ&ビルドすることにより、スピード感をもち、学校総体として目標を達成できる組織とする。</p> <p>(2) 「育成支援チーム」事業による研修を活用し、研修参加者から学校運営に関する提言を提出させ、学校運営への参画意識を醸成する。</p>	<p>(1) 学校組織の改編 (○) ・11月に学校組織を改編し、首席を中心とした学校運営体制を再構築した。次年度は改編した組織の円滑な運用を図りたい。 ・内規検討委員会で内規を検討し、改正した。 ・朝の連絡会を9月1日から導入し、教職員間の情報共有を図った。</p> <p>(2) ミドルリーダー層の育成 ・「育成支援チーム」事業による研修を活用し、研修会を実施。10月の研修会で研修参加者から学校運営に関する提言を提出させた。(○)</p>